

平成 24 年度第 3 回恵那市市民評価委員会

議事録（要約版）

※現地視察と事業のヒアリング

日時：平成 24 年 8 月 1 日（水）

午前 9 時 00 分出発

場所：市内各所

1 視察・ヒアリング順序

事業名

- ・サンホールくしはら自主事業、管理運営経費（文化課）
- ・空き家バンク事業（企画課 ふるさと活力推進室）
- ・日本大正村施設整備事業（明智振興課）
- ・恵那CATV管理運営事業（防災情報課）
- ・放送運営事業（企画課）
- ・食育の推進（学校教育課）
- ・少年消防隊育成事業（消防本部予防課）

出席者（敬称略）

【委員】市川美彦、大橋由美、柴英子、田口譲、柘植麻美、平野未帆、牧野香、宮地政臣、三輪哲司、山田基

【オブザーバー】竹内泰夫

【事務局】企画部長 小嶋初夫、企画課長 千藤秀明、企画課係長 福平栄久、企画課総括主査 和田信之

1 視察・ヒアリング

◇サンホールくしはら自主事業、サンホールくしはら管理運営経費

(現場での質疑応答)

■委員 施設を廃止した場合、公民館などの代替施設では難しいのか。

■回答 難しいと結論付けたわけではなく、検討の必要があると考える。このホールが出来る以前、平成5年以前はどこかの施設を使用していたわけだが、当時と現在の状況は変わっており、代替施設が老朽化しているのか、整備する必要があるのか無いのか。など、きちっと調査しなければならない。

■委員 大井町では地域懇談会を小学校の体育館で行っている。東野では歌舞伎を小学校の体育館で行っており、大変な盛り上がりだ。そういう使い方でも問題ないと考える。かかっている費用に対して利用が少ないから廃止だと言っているわけではなく、どういう使い方をしているか聞きたい。

中山太鼓と歌舞伎だけでどれくらいの利用があるか。

■回答 中山太鼓について、平成23年度は全国太鼓交流会がここで開かれているが、通常は多目的ホールで1回。普段は各地区で練習をして総練習をここで行う形。

歌舞伎は9月29日から11月20日まで18日間、常時35人程度が使っている。11月20日の文化祭に向けての練習での利用であった。

■委員 サンホールくしはらと、公民館とのすみ分けはどうしているか。

■回答 公民館の利用状況は今把握していないが、歌舞伎をやるには少し狭いのと3階まで上がるのがネックになっている。

■委員 サンホールくしはらを地元へ管理移管することは打診しているのか。

■回答 指定管理に関して内部的に有限会社ささゆりの湯に聞いたことはある。

◇空き家バンク

(現場での質疑応答)

■委員 移住者の年代は？

■回答 色々であるが、最近では30～40代の子育て世代が多い。年配の方もおり半々くらい。23年度は大分から空き家バンクを利用し5人家族の方が移住されたし、東京から3人家族が移住された。横浜からも、農業をやりたいと上矢作へ移住された。

■委員 移住後の定住状況は？

■回答 引越した人はいない。

◇日本大正村施設整備事業

(現場での質疑応答)

■委員 町内の会議に出席して感じるのは、大正村と住民との意識の違いが感じられる。この意識の違いのすり合わせみたいなもの、市民と大正村とのコミュニケーションはとっているのか。

■回答 大正村の組織の中に、実行委員会があり7部門200人くらいで組織されている。実質は100人くらいのボランティアが活動している状況。町民の中にも関心のある人、地元にて大正村の良さを分からない人がいるのが実情である。折に触れPRしているが、市民の中に温度差があると感じる。

◇恵那CATV管理運営事業

(現場での質疑応答)

■委員(意見) 市民の放送局として普及させる努力をして欲しい。料金を下げるとか、いろいろな楽しみな番組を増やすなどし、もっと経営努力をして加入率を上げて頂きたい。中心市街地で加入率が低いようだが、中心部でも市の情報は欲しい方はたくさんいる。私たちが「いいものである」と言って普及促進に努めるが、会社としてもっと普及に努めて欲しい。

■委員 決算について、平成23年度に1億1,300万円ほどの利益があることについて。

■回答 加入率が上がって料金収入が増えたことと、今まで設備投資していた費用が徐々に減ってきたことが要因。

■委員 これから先もこれくらいの利益が続くのか。

■回答 そう考えている。ただし、設備の老朽や劣化により改修や修繕が必要となるので、そちらに充てていきたいと考えている。

■委員 加入率が50%台と低いのは、アパートなどの集合住宅が要因か。

■回答 それもあるが、アンテナを立てれば見えることや、光フレッツも来ている大井、長島地区でケーブルテレビの需要が少ないのが要因。

(補足説明) 大井、長島地区での加入率20%程度である。料金を払ってテレビを見たいというような番組を充実させないと加入率は上がらない。

■委員(意見) デジタル化になった際の加入率がたった4%だけの伸びとは驚いた。N T Tなどはものすごく宣伝している。私はアミックスに入っているが、魅力は保育園、幼稚園を放送しているからだ。魅力ある番組を増やして欲しい。

◇食育の推進

(現場での質疑応答)

■委員 テーマは誰が決めていますか。

■回答 各学校で特色ある取り組みを行っていますが、その内容は保護者の意見、子どもの希望や地域の状況・環境などを考慮して教職員がテーマを決めている。

■委員(意見) 食育はとても大切なことと考えています。これからも継続していただきたい。食育は一番大事な事ではないか。

■回答 市内には4つの給食センターがあるが、給食メニューは栄養教諭が指導している。各学校では給食委員がその日のメニューを紹介するなどの活動を行っている。

■委員 恵那市の食育の方針がわかりにくいと思う。何か1つ筋を通したらどうか。2児の親だが、金曜日の給食メニューで、やきそばとドーナツという組み合わせだった。受益者ということについては、親には受益者として伝わっていない。

■会長(補足) 今の給食は練り製品が多いと思う。例えば小魚を取り入れてカルシウムを摂取するメニューを増やすなど、給食の中にひとつ核となるような方針を取り入れるという解釈でよいのか？

■委員 例えば、給食を全部ごはんにするとか。恵那市としての方針を決めては。

■回答 今のご質問の回答はできないが、以前、市長から月曜日から金曜日まで米飯給食にしたらどうかという話があった。現在の恵那市の学校給食は、米飯3日、パン2日、麺1日というメニューとなっている。これは、子供たちと保護者の方々からのアンケー

ト（要望）で決まったことなのでご理解頂きたい。

■委員 市の方針に従うものではないですか？

■回答 給食を受ける側の意見は大切です。

■委員（意見） 大井第二小では2年生は野菜、5年生は米作りをし、作る大切さを学んだ。社会性を持たせるのも大事だ。

■委員 実施状況についてですが、中学校で4校補助を受けていないのはなぜか。

■回答 4校は食育を行っていないということではなく、補助を受けなくても食育を行っている学校である。串原中は小規模なため地域や保護者らで食に関する取り組みを行っているし、東中はお弁当の日の実施、西中は栄養教諭の話を聞く機会を多く取り入れている。また、北中はランチルームで栄養教諭の話を聞くなどで食育を推進している。

◇少年消防隊育成事業

（現場での質疑応答）

■オブザーバー この事業の目的は、将来防災リーダー（消防団員や消防署員）になる人を育成することと説明があったが、昭和58年からこの事業があり、当時の少年消防隊員が、消防署員や消防団員になったか？この事業は長期的にみでの成果を期待するものとする。

■委員 目的が将来の消防署員や団員を育成することであるならば、目的に対しての啓蒙意識が薄いのではないか。消防団員の口コミの募集では範囲が狭すぎる。

■回答 誰にでも募集をかけなければならないと考えている。

■委員 少年消防隊に定員はあるか？

■回答 旧市110人、恵南100人、合計210人の定員。

■委員 2年前の外部評価試行委員会で女性防火クラブが対象事業となった。この時と同じような見直しが必要ではないか。

■委員 私の子どもも対象年齢だがこの事業の事を知らなかった。広く知れ渡る方法が必要と考える。また、活動の中の部外研修は参加費を徴収するのか。

■回答 参加費は徴収しない。1日の研修活動のご褒美として行っている。

■委員 定員は13分団ごとで割り振られているのか、市全体で210人の定員か。

■回答 分団や地域に分けは無く、市全体の定員である。

〔 閉 会 〕